

美術科学習指導案

指導者 橘 由紀恵

日 時 平成 26 年 11 月 22 日 (土) 第 3 校時 (13:15～14:05)
年 組 中学校第 2 学年 2 組 計 40 名 (男子 20 名, 女子 20 名)
場 所 中学校美術教室
題 材 鑑賞～いろいろな視点からの絵画分析～

題材について

鑑賞の授業において、それぞれの生徒の発達段階や学習経験の深まりに応じて、対象にかかわる様々な知識や美術的な理論（科学的概念）、作家のエピソードや生き方などに出会う経験が、個々の鑑賞能力のさらなる高まりにつながると考えている。11 月 22 日で、科学的概念をもとに、生徒が作品を分析、批評する活動を通して、小学校、中学校の 9 年間で育てたい生徒像である「自分らしい感性に基づいた審美眼をもち、身の回りのさまざまな対象や環境に主体的にはたらきかけながら美的体験を享受し、表現することを楽しむ」に近づくことができるような授業を設定する。

本題材では、画家である熊谷守一の作品を取り上げる。彼はフォービズムの画という位置づけをされている。しかし、初めは写実画から出発し、次に表現主義的な画風となり、やがて形を単純化して、輪郭線、平面的な表現で抽象度の高い「熊谷様式」を確立している。自然や身近な小動物や花などを描いた画家で、洋画だけでなく日本画も好んで描き、書・墨絵も多数残している。それらの作品を鑑賞することで、いろいろな絵画技法にふれたり、熊谷自身の生き方などを考えることができる。

本学級の生徒は考え方が多種多様で、興味関心が高まると集中して取り組むことができる。これまでに、シュルレアリスムや写実画などの作品を想像力豊かに感じ、なぜそう感じたのかを理由も含めて表現させて鑑賞する授業を行ってきた。そこで、作品に関する情報を何も与えないで鑑賞させると、豊かに発想する生徒がいた。一方で、何も感じることができず、何を書いたらよいのか分からない生徒も少なくなかった。

指導にあたっては、作者の人生や、絵画技法などの科学的概念を生徒の発想が固定されないように、適切なタイミングで与えていく。本時の導入においては、素直な心で、自分の中にでてきた感情や、気づきを共有できる時間をつくることで、あまり感じるできない生徒が少しでも感じ、表現することができるようにしていきたい。また展開では、熊谷守一の作品がどのような技法で描かれているのか、彼が歩んできた人生はどのようなものだったのか、などをもとに分析し、批評する活動を行う。批評する際には視点をいくつか与え、それらを意識して豊かに作品を鑑賞できるようにしていきたい。さらに、個々が感じたことを少人数で交流させ、全体場で発表させることを通して、それぞれが感じたことを共有できるようにしていきたい。

指導目標

絵画技法や、作者の情報などをもとに分析し、いくつかの視点で批評する活動を通して、より深く作品を鑑賞できるようにする。

指導計画

1. ワイエスの作品鑑賞～自由に感じて書こう～
2. 北脇昇の作品鑑賞～描かれているものにどのような意味があるのか、理由も含めて考えよう～

3. 熊谷守一の作品鑑賞～いろいろな視点から分析しよう～（本時）

4. 日本画鑑賞

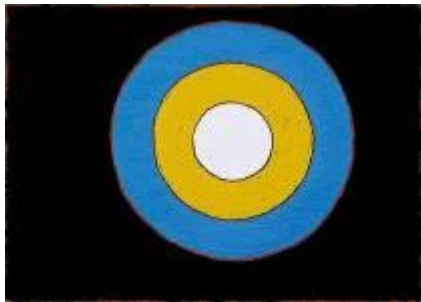
本時の目標

いろいろな視点から絵画を分析することができる。

「学びのつながり」の視点

小学校・中学校の学びのつながりにおいて、Ⅰ期では、アートゲームの導入による能動的な鑑賞活動の中で、美術作品から受ける印象や気づきなどを多様な言葉に置き換えることを通して、児童の内言の発達を促し、鑑賞学習の基礎を培うことを目標として授業を行っている。Ⅱ期では、美術作品を媒体とする対話型コミュニケーションを通して、美的対象に対する個々の見方や感じ方を伝え合い、交流し合うことを通して、思考をさらに進化させることを目標として授業を行っている。Ⅲ期では、美術作品やその作家に関する知識、色彩や構図、技法に関する理論など（科学的概念）を積極的に取り入れ、個々の生徒がそれぞれの生活経験の中で培った感覚（生活的概念）を摺り合わせながら鑑賞することによって、より高次の思考・判断が可能になる。根拠をもとに価値判断をするには、「分析」や「解釈」が必要不可欠であり、目に映ったありのままの事実や、それと出会った時に生まれる個々の主観的な見方や感じ方だけにとどまらず、様々な理論（色彩や配色の効果、構図、図像学など）や情報（美術史、時代背景、作者のプロフィールなど）を関連づけながら美術作品を捉えていくことが必要である。科学的概念を踏まえた明確な根拠のもとに自分なりの解釈をし、新たな価値を獲得する。このような学びのサイクルの中で科学的概念と生活的概念の行き来が促されることが、より高次の思考・判断につながる。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 導入（5分） □熊谷守一の作品をみて感じたことを発表する。 「朝のはじまり」1969年  「馬」1910年 	○アクティブボードを利用する。 ○感じたことを表現するよう呼びかける。 ○なぜ、そう感じたのかを考えさせながらすすめる。

2. 展開 (40分) □作品を見て感じたことを書く。 「あじさい」 1973年  ・石みたい。 ・夜の山に灯る光ではないか。 ・花を丸で表現している。 など。 □作者の生き方，人物像を知る。 □作品で使われている技法や特徴を知る。 □作品を分析し，ワークシートに記入する。 ・色彩と色の組み合わせ ・構図の工夫 ・熊谷守一の生き方，エピソード ・作品に関する評論家の批評 など □感じたこと，考えたことを発表する。 ・自然の美しさを表現することは僕にはできないうと感じて，単純化した形で描いたと思う。 ・この黄色い丸は作者自身を表していると思う。なぜなら，彼は草木に囲まれて寝ることが幸せだったから。 など。	○最初は作品に関して何の情報も与えず，自由な想像で書かせる。 ○スライドや写真を見せながら紹介する。 ○熊谷の言葉も紹介する。 「私は好きで絵を描いているのではないんです。絵を描くより遊んでいるのが、いちばん楽しいんです。石ころひとつ見ているでも全く飽きることがありません。」 ○個人で感じ，考える時間をしっかりとる。 ○まわり人と感じたことを伝え合いながら，自分の考えをまとめるよう呼びかける。 ◆いろいろな情報をもとに意欲的に作品を見ることができる。 【美術への関心・意欲・態度】 ◆ワークシートに自分の考えや感じたことを表現することができる。 【鑑賞の能力】 ○机間指導をもとに発表させる。 ○他の生徒の考えに対して，感じたことを発表させる。
3. まとめ (5分) □絵画を分析するいろいろな視点を確認する。	○生徒の活動の様子について，評価する。